

東北復興 PSW にゆうす

ほんとうはここから必要なことがある。ずっと長く続けること。見守り続け、寄り添い続け、そしてかかわる…みなさまと「東北のいま」を共有したいと思います。全国各地の仲間からの大いなる支持を抱く復興支援本部は、被災地にあるPSWの、日々の暮らしに心を寄せ、地道な実践にエールを送り続けたいと思います。ひとりの「わたしに何ができるか」が、もうひとりの溢れる想いへとつながり、日本列島のどこにあっても隔たりなくわたしたちの持てる力を結集する協会でありたいと思います。(復興支援本部を代表して) 小関清之

石田康正 東北の短い夏にエネルギーが爆発しています。全国のあちこちから暖かい支援が届いています。今一度自分たちにできる事を考え、さらに前へ進みましょう。

岡崎 茂 全国の仲間が応援してくれている、つながっている。一人で考え込んでてもしようがないんだよなア〜。

品川清美 震災直前の日曜日数年ぶりに松島から石巻に行き、石巻から一関を経て帰りました。想い風景はその時のままです。

加藤雅史 県内PSW「一人一人がいま出来る活動」。被災地復興への想いを込め伝えて行きたい。ガンバレ東北！

鈴木長司 私たちの想いを届けます。皆さんの想いを届けてください。エネルギーになるように、元気玉になるように。

河合宏之 まずは、出来ることから…、支援の灯火が、消えることなく、幾久しくと…、願う限りです！！

木村雅昭 東北に想いを馳せながら、「応援し応援される」関係性を遠い広島の中から、後方支援に徹し活動していきたいと思っています。よろしくお祈りします。

渡部裕一 言いたいことは山ほどあるけれど、今はただ「日々出来ることをひたむきにやる」ことを心がけます。

本 部 員 紹 介

藤田さかえ 奇跡的に残ったキャラクター像たちが石巻市の被災者を勇気づけました。私達の支援もそのようにありたいですね

菅野正彦 被災者支援と言いながらちよいちよい外に出られるのも、中で日頃の業務をしっかりとやってくれている同僚たちのおかげ。そのことに感謝して、自分のできることをやっていきます。

長谷 諭 みなさんの声をお聞かせください。ともに悩み、考え、歩んでいきたいと思っています。

木太直人 「東北のことはけして忘れない」「東北のPSWのことを思い続ける」出来ることを大切にしていきたいと思っています。

[東日本大震災復興支援本部]

[本部長] 柏木一恵(会長)
[本部長代行] 小関清之
(東日本大震災復興支援担当理事)
[副本部長兼事務局長] 木太直人
(常務理事)

[本役員]

石田康正(青森県支部長)
品川清美(岩手県支部長)
岡崎 茂(宮城県支部長)
加藤雅史(秋田県支部長)
河合宏之(山形県支部長)
鈴木長司(福島県支部長)
木村雅昭(本部長代行補佐/友和病院/広島県支部)
藤田さかえ(久里浜医療センター/神奈川県支部)

菅野正彦(桜ヶ丘病院/福島県支部)
渡部裕一(みやぎ心のケアセンター/宮城県支部)
長谷 諭(事務局補佐/宮城県支部)

[オブザーバー]

廣江 仁(災害支援体制整備委員長)
宮部真弥子(第一副会長)
田村綾子(第二副会長)

つながろう！ J A P A N ~ P S W

メッセージ「岩手・宮城・福島のPSWの仲間たちへ」

被災地の復興に向けて日々奮闘していらっしゃるPSWのみなさま、この「にゆうす」を手にとりいただき、ありがとうございます。私たちは、被災した東北各地のみなさまと想いを同じくし、「支援者の支援」としてできることはないかと考えています。3.11後、「つながり」「絆」ということばが多く使われています。少しでも実感しあえるように、東北各地の情報をお伝えしながら声をかけ合う紙面作りを企画しました。私たちは被災地と其処で歩む皆様に関心を持ち続け、できることを探します。ちょっと一息入れながらお読み下さい。

第1回は、福島の「今」をお伝えします

福島県内では、様々なことが進行し変化し続けています。方部によっても様々な動きがありますので、福島県内6方部の「今」をお届けします。

★相双方部 メンタルクリニックなごみ 須藤康宏

まず、今日までの多大なるご支援に感謝申し上げます。ここ相双地区は原発事故によりコミュニティが分断されてしまった非常に特異な環境にある。筆者も所属する「NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」がこころのケアセンターを設立し、仮設住宅でのサロン運営や戸別訪問等の活動を展開している。PTSDの発症は少ないが、震災後にうつに罹患した方が目立つ。最近では、補償問題が絡んだ地域格差による被災者同士のトラブルも見られている。また、支援者の疲労が顕著に出始めており、彼らのメンタルヘルスに注意を払い対処することが、今後の長期的な支援を継続するためにも目下の課題である。

★いわき方部 新田目病院 水野英一

専門職チームは双葉町の仮設住宅での活動を7月で一旦終了。今後の活動を検討中。楢葉町・双葉町の仮設住宅が今後増設予定。それに伴い他市町村にあった役場機能もいわき市に移転予定。支援のスムーズ化が期待。相談支援は心のケアセンターや役場の相談体制もある程度整ってくる。借り上げ住宅確保の影響により単身アパート生活希望ケースの退院支援が滞る。GHも不足。うつ症状を訴える新患が増加傾向。

★県北方部 桜ヶ丘病院 菅野正彦

相談支援専門職チーム、こころのケアセンター、相談支援専門員等が被災事業所や被災者の支援を行っている。各支援の連携の動きが始まっているので、更に加速させつつ役割を明確にし、支援を継続していきたい。

★県中方部 針生ヶ丘病院 松本マチ子

郡山市内の2ヶ所の仮設住宅内にソーシャルワーカー室を設け、社会福祉士会、医療ソーシャルワーカー協会と共に週1回活動をしている。先の見えない長い避難生活をしている皆様に寄り添った支援ができるよう地道な活動を続けたいと思っているが、自分の業務もあり参加できる会員が増えない状況。

★県南方部 塙厚生病院 佐藤直樹

白河市内の仮設を中心にリハチームが体操教室を開催。9月からは集会所での茶話会で、避難者同士や支援者との交流、避難生活の不安や問題の解消、自立に向けての話し合い等の支援をする。日頃の業務も抱え、限られた会員しか参加できないが、出来る限り多くの参加協力を呼びかけたい。

★会津方部 福島学院大学 山口智

特に不登校支援の必要性が協議されていたが、現在は児童対象のメンタル支援が行われつつある。そして、課題としては、ネグレクトによる虐待案件があり、被災者の心理や環境に配慮したアプローチが求められている。

(敬称略)

☎復興支援本部「ほっと phone」のご案内

直接つながる専用PHSがあります。被災地にあつて暮らし、日々の実践に励まれる皆さんの声をお寄せ下さい。全国各地から被災地にお届けする声も期待しています。電話代ご負担の無いように着信歴を残していただければこちらから掛け直します。小関本部長代行(山形・木の実町診療所)がお応えします。[TEL070-6450-2615]お寄せいただいた声は、復興支援に生かしてまいります。

創刊号 2012年9月15日発行
発行:(社)日本精神保健福祉士協会
発行人:柏木一恵 編集人:小関清之
東日本大震災復興支援本部
〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3
四谷オーキッドビル7F
TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993
復興支援本部 URL:
<http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>